2018 年度　通信教育部　情報デザインコース　特別講義

イラストレーションはどう変わったのか in 東京!

都築潤（イラストレーター、グラフィックデザイナー、京都造形芸術大学教授）

日時：2018 年 12 月 8 日（土）　18:00 ー 19:30（終了予定）

場所：京都造形芸術大学　外苑キャンパス（教室は当日掲示）

©2002 Tower Records Japan Inc.

©2004 NTT Resonant Inc.

©1999 Hikaru Kurozumi

イラストレーションはイラストと呼ばれて親しまれ、いまは誰でも知っている言葉になりました。私たちはその意味をなんとなく理解し、日頃の会話の中でも自然と登場します。またそれは「イラストレーションと絵画は違う」とか「子供の描くイラストみたいだね」など、絵を区別するために意識的に使われる場合もあるでしょう。ところが本来、イラストレーションのもつ意味はもっと専門的で限定的でした。それが今日のようなポピュラーなものに推移してきたという歴史がありますし、そこには経済や情報の在り方の変化が大きく関係しています。一方でその範囲を拡張していく未来の意思や発想にとってもやはりイラストレーションを知ることが不可欠で、じつはこうした姿勢をもつことはクリエイティブ活動の全体に関係するのです。そのための礎石づくりを目標に「イラストレーション」を概説しようと思います。（都築潤）

1）イラストレーションの定義
2）メディアとイラストレーション
3）イラストレーションの拡張と島宇宙化

都築潤

1962 年生まれ。武蔵野美術大学卒業。イメージフォーラム中退。
日本グラフィック展、日本イラストレーション展、ザ・チョイス年度賞、年鑑日本のイラストレーション、毎日広告賞、TIAA、カンヌ国際広告祭、アジアパシフィック広告祭などで受賞。主な仕事に、TV ドラマ「ギフト」「人にやさしく」などのタイトルマーク、日本 IBM、ナイキジャパン、日本 HP、SUBARU、日清紡、東海大学、東京都庁などの Web コンテンツ、クボタ、三井物産、大塚製薬などの新聞広告の他、ポスター、雑誌の広告イラスト、書籍のカバーイラストは多数におよぶ。2001 年から「絵一般」についてのトークイベントを定期的に実施。美術出版社「日本イラストレーション史」執筆、監修。専門誌や Web でイラストレーションについての文章を多数執筆。Web コンテンツ制作ユニット firelight としても活動。京都造形芸術大学情報デザイン学科教授、多摩美術大学非常勤講師。東京工芸大学、創形美術学校、桑沢デザイン研究所、美学校でも授業を担当。近年開催の展覧会は、2010 年個展「ニューエイドス」、2013 年「都築潤 × 中ザワヒデキ」。

京都で好評いただいた本講義を特別に東京でも開講します！